

# 佐香・長沢組(宮古)制す 男子420級

## セーリング

(中嶋俊・山根宏貴) 13点③宮古商C(木村境吾・千田直人) 24点  
 ▼420級 ①宮古A(佐香将太・長沢慶) 9点②宮古A(加藤卓・向口瑠袈) 11点③宮古B(山内裕・伊藤澤史・尾形龍希) 21点  
 【男子】  
 ▼FJ級ソロ ①宮古商A(前川翔太・飛沢大樹) 8点②宮古A 21点  
 【女子】  
 ▼FJ級ソロ ①宮古商A(工藤紗弥・三浦ありさ) 7点②宮古A(長沢侑里・加藤美久・若狭郁実) 16点③宮古商B(宮沢望来・佐々木麗羅) 18点  
 ▼420級 ①宮古A(田中真



男子420級で優勝した宮古Aの佐香将太(左)、長沢慶(右)が宮古市・リアスハーバー宮古沖

レースが響き、優勝を逃した。和歌山国体7位の実績もあり、勝利への「プレッシャーと緊張」もあった。

琴・小笠原彩乃) 9点②宮古商A(佐々木香波、前川優香) 11点  
 出場2艇

▼宮古商Aは風に泣く  
 男子420級の宮古商A加藤卓、向口瑠袈組(ともに3年)は、風が目まぐるしく変わった4日の

## ライバル対決に勝利

男子420級は宮古Aの佐香将太、長沢慶(ともに3年)組が、宮古商A加藤卓、向口瑠袈(ともに3年)組との事実上の一騎打ちを制した。佐香は「大きなレースで勝ち切ることが目標」と喜びは控えめに、決意を新たにしました。

佐香、長沢組は3月に行われた関



男子420級を制した宮古Aの(左から)佐香将太、長沢慶

加藤は「得意なコンディションではなかった。ちよっとした所でミスが出た」と振り返り、向口は「自分たちと宮古の差を本年度になり初めて知った。課題も見つかり、これからの大会につながる練習をしてきたい」と

目標を掲げた。  
 ▼国体に向けて津波避難訓練 セーリングの競技終了後は岩手国体の開催に備え、選手らが津波注意報の発令を想定した避難訓練を行った。



岩手国体開催に備え、避難訓練を行う選手や競技役員

た。  
 川口進競技委員長(宮古商高教)は「役員が避難行動を確実に誘導できるようにしたい」と意義を説明した。

東420選手権で5位に入った実力の持ち主。一方、加藤、向口組も和歌山国体7位入賞を果たしている。ライバル対決の勝利にも勝者に笑顔は少なく、自己評価は50〜60点だった。

それでも、1979年の宮崎国体

成年男子スナイプ級で優勝経験がある、佐香の父敏彦さん(56)は「80点は付けていい」と背中を押した。もともと「風が強いと負け、弱いと勝つ」(佐藤竜介顧問)2人だったが、初日の4日は不安定な風の中でも、確実に勝利を収めた。佐藤顧問は「どんな風でも合わせられるようになってきた。駆け引きの力も身に付いてきた」と評価する。

一方、5日の第7、8レースはライバルに先着を許し、2人は集中力と体力を課題に挙げ、克服を誓った。(菊池拓)